

2015年NPTに向けて 核兵器全面禁止の大波を！ 原水爆禁止世界大会・広島

大会参加にあたって

8月4日から6日まで、広島で行われた原水爆禁止世界大会に参加しました。

今回の参加にあたって、私にはふたつの思いがありました。ひとつは、来年ニューヨークで開かれるNPT（核不拡散条約）再検討会議に向けて、核兵器禁止条約の交渉開始が焦点となるなか、国連や各国の政府・平和運動の代表、日本の運動の代表が、どのような議論を交わし、展望を示すのか学びたいということ。もうひとつは、安倍政権の集団的自衛権行使容認の閣議決定強行を受けて、海外で戦争する国づくりを許すわけにはいかない・・・これは被爆地広島



国内外から7000人が参加。閉会総会では参加者全員で合唱。



5日夜の「女性のつどい」には、海外代表も多数参加。

の、そして多くの被爆者の願いはないのか、それを肌身で感じたいということでした。

たたかい多彩に交流

参加者のスピーチや報告は、8カ月後に迫ったNPT再検討会議を、核兵器廃絶を実現する決定的な転機とするために、核兵器全面禁止の大波をつくりだそうという決意がみなぎるすばらしいものでした。

日本被団協の坪井直代表委員（89歳）は「核兵器廃絶、核兵器禁止条約が成り立つまでは、絶対に死にたくありません」と力強く表明。核保有国を提訴したマーシャル諸島の政府代表ら、多くの海外代表が発言しました。

全国各地の行動では、「100万人の署名、150人のNPT代表派遣をやりきる」（大阪府）、「県内全27自治体で原爆写真展を開いた」（岡山県）などが報告されました。

「核抑止論」をのりこえて

討論では、「核抑止力」論の克服がますます重要であると強調され、「非人道的な核兵器を保持し続けることには、一片の道理も道義もないことを徹底して明らかにしてこそ、核保有国の抵抗をのりこえ、『核兵器のない世界』への展望を切りひらくことができる」と呼びかけられました。広島市の「平和宣言」でも、核兵器という「『絶対悪』による非人道的な脅しで国を守ることを止める」よう訴えていることは重要です。



原爆ドーム前で。リニューアルした原爆資料館にも行きました。

日本共産党杉並区議会議員 くすやま美紀 原水爆禁止2014年世界大会報告

2014年 8月21日

阿佐谷南1-15-11 区議会控室 3312-2111(内)2319



「戦争する国」づくり許さない 国民的連帯を力に

「戦争する国」被爆地は拒否

安倍政権が進める「戦争する国」づくりに対し、二つの被爆地は、相次いでノーを突きつけました。6日、安倍首相は広島市内で被爆者団体との懇談。憲法解釈変更の「閣議決定」撤回を求められました。9日の長崎平和式典でも、被爆者代表から「日本の平和を武力で守ろうというのですか?」と、集团的自衛権行使容認や武器輸出にノーを突きつけられました。安倍首相は「見解の相違」などと被爆者の叫びを切り捨てましたが、広島、長崎両方の被爆者から、戦争拒否の声が上がったことは大きな意義を持つものです。



6日は広島市主催の平和記念式典に参加。大雨のなか、大勢の参加者とともに、原爆が投下された8時15分、黙とうを捧げました。

6日の原水禁世界大会・広島閉会総会で、国連のアンゲラ・ケイン軍縮問題担当上級代表が代読した潘基文（パン・ギムン）事務総長のメッセージ（全文）は、次の通りです。

今年60回目を迎える原水爆禁止世界大会のすべての参加者のみなさんにごあいさつを送ります。とくにこの大会の成功のため、長年、熱心に活動してこられた高草木博さん（日本原水協代表理事）をはじめ、多くの方々にたいし、深い哀悼の意をささげます。また、この恐ろしい大量破壊兵器の非人道性を世界に知らせるため、たゆみなく努力してこられた被爆者のみなさんに、心からの感謝を表明します。全人類の未来のために、多大な貢献をしてこられた不屈で高潔なみなさんとの出会いを私は決して忘れません。

平和への誓い新たに

今大会は、集团的自衛権行使容認「閣議決定」に反対し、憲法を守りいかす運動、原発再稼働反対、米軍の新基地建設反対など、安倍暴走政治に対する国民的なたたかひとも連帯した大会でした。

私が参加した分科会では、兵庫県で活動する女性から「自衛隊員の息子を持つ母親が閣議決定に反対する署名を10枚、20枚と

核兵器の使用がどのような悲劇を人類にもたらすかを広く伝え、被爆者は市民社会の多様な団体を結集する広範な運動に貢献し、核兵器を世界からなくすために力をあわせてきました。

被爆者の尽力のおかげで、核兵器使用のもとらす壊滅的な人道的影響が理解され、市民社会と大多数の政府は強い危機感をあらわにしています。

核兵器をなくすことは、世界の人人々すべての利益となるものであり、将来核兵器が使用されない唯一の保証です。この目標を実現すれば、人類は再び核の悪夢に悩まされることなく、莫大な資源を社会、経済、環境、人権、安全に振り向けることができます。

この崇高な大義へのみなさんの貢献をたえ、核兵器のない世界の実現をめざす私たちの共通のたたかいで、みなさんが多くの成功を収められることを期待します。

集めている」ことなど報告されました。

被爆70年であり、NTPが開かれる2015年を、核兵器廃絶実現への決定的な転機するため、草の根から広大な世論と運動をつくろうという呼びかけにこたえ、今大会で学んだことをいかに、力を尽くす決意です。

最後になりましたが、大会参加のための募金にご協力いただいた方々に心からお礼を申し上げます。